

## 授業評価・授業研究報告書

家政教育・藤田昌子

### 1. 授業の概要

#### (1) 対象授業の科目区分など

##### 【対象授業の科目区分】

学校教育実践コース（家政教育専修）・生活環境コース

##### 【科目名】生活経営学

【登録学生数】23名（対象は2回生で，中学校家庭科および高等学校家庭科の教員免許の取得をめざす学生，コース選択科目として生活環境コースの学生が履修している。）

#### (2) シラバスに掲げられた授業の目的，到達目標，関連するディプロマ・ポリシー（DP）

【目的】生活者として当事者意識をもって多面的な視座から生活の実態を把握し，個人の生活と社会とのかかわりについて考えることを通じて，私たちの生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的にとらえ，問題解決できる生活者としての知識と資質を身につける。

##### 【授業の到達目標】

- 1) 私たちの生活の背景にある現代社会の諸課題を客観的に把握できる。
- 2) 1) で把握した諸課題の解決に必要な知識を理解し，説明できる。
- 3) 変化した生活環境・多様化した価値観のなかで，生活者として主体性のある意思決定の視点をもつことができる。

##### 【ディプロマ・ポリシー】

**DP1** 教科・教職に関する確かな知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している。

#### (3) 授業の内容の概要

- 第1回 生活経営学基礎論(1)  
家政学とは，生活経営学とは
- 第2回 生活経営学基礎論(2)  
現代の生活における諸課題
- 第3回 生活経済と生活経営(1)  
生活資源とは，家計管理
- 第4回 生活経済と生活経営(2)  
クレジットと多重債務
- 第5回 格差社会と生活経営(1) 社会保険①

- 第6回 格差社会と生活経営(2) 社会保険②
- 第7回 格差社会と生活経営(3)  
自分や仲間の働く権利を守る①
- 第8回 格差社会と生活経営(4)  
自分や仲間の働く権利を守る②
- 第9回 格差社会と生活経営(5)  
自分や仲間の働く権利を守る③
- 第10回 格差社会と生活経営(6)  
住生活のマネジメント
- 第11回 格差社会と生活経営(7)  
ハウジングプアと住まう権利
- 第12回 格差社会と生活経営(8) 公的扶助
- 第13回 共生社会と生活経営(1)  
共生社会の視点
- 第14回 定期試験・振り返り
- 第15回 共生社会と生活経営(2) 課題発表  
格差社会と生活経営(10)  
教育の貧困，学ぶ権利

#### (4) 授業の方法の工夫

- ① ロールプレイング（模擬団交），シミュレーション，グループワーク，KJ法，ゲーム形式などの参加型学習を多用する
- ② 体験学習（アクセシビリティの検証）を行う

### 2. 授業評価・授業研究

#### (1) 学部DPとの対応

受講生13名から回答があり，下記のような結果であった。いずれのDPにおいても，本授業が対応していた（とてもそう思う＋ある程度そう思う）とする学生が約90%～100%となっており，学部DPに対応した授業内容であったといえる。

##### DP1 知識・理解

1A この授業では教育に関する確かな知識を得ることができる

とてもそう思う	53.8%
ある程度そう思う	46.2%
あまりそう思わない	0%

1B この授業では自分の専門分野の知識を得ることができる

とてもそう思う	61.5%
ある程度そう思う	30.8%
あまりそう思わない	7.7%

ある程度そう思う	53.8%
あまりそう思わない	0%
DP と無関係	30.8%

#### DP 2 思考・判断

##### 2 A この授業では教育をめぐるさまざまな現代的課題について理解することができる

とてもそう思う	46.2%
ある程度そう思う	53.8%
あまりそう思わない	0%

##### 2 B この授業では教育の現代的課題に対して適切な対応方法を考えることができる

とてもそう思う	38.5%
ある程度そう思う	53.8%
あまりそう思わない	7.7%

#### DP 3 技能・表現

##### 3 A この授業では教育活動に取り組むために必要な技能を身につけることができる

とてもそう思う	30.8%
ある程度そう思う	53.8%
あまりそう思わない	7.7%
DP と無関係	7.7%

##### 3 B この授業では教育活動に取り組むために必要な表現力を身につけることができる

とてもそう思う	30.8%
ある程度そう思う	53.8%
あまりそう思わない	15.4%

#### DP 4 関心・意欲

##### 4 A この授業では自己の学習課題を明確にすることができる

とてもそう思う	46.2%
ある程度そう思う	46.2%
あまりそう思わない	0%

##### 4 B この授業では理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる

とてもそう思う	46.2%
ある程度そう思う	53.8%
あまりそう思わない	0%

#### DP 5 態度

##### 5 A この授業では専門的職業人としての使命感や責任感を身につけることができる

とてもそう思う	53.8%
ある程度そう思う	46.2%
あまりそう思わない	0%

##### 5 B この授業では多世代にわたって対人関係を形成する力を身につけることができる

とてもそう思う	15.4%
---------	-------

#### (2) 授業振り返りシートの学生の学びより

模擬団交を行ったことで、働く人の権利をより具体的に理解し、労働に関して問題を抱えた時にどのように対処したらよいか体験的に理解することができたという学生が多くみられた。そして、自分のアルバイトの労働環境を見直すきっかけとなったようで、多くの学生が労働した日数や時間をメモするようになった、給与明細を保管するようになった・しっかり見るようになったとしている。なかには、アルバイトのことで相談、交渉した学生もみられ（給与明細を要求して、初めて出してもらった。バイト仲間と一緒に片付け時間の給料を要求したなど）、授業で修得した専門的知識を現代的課題に対する問題解決に活かしていたといえる。

#### 3. 授業時間外学習の促進

授業時間外学習を促進する工夫として、①授業に関連する新聞記事の収集・考察を行う②既存のサイト（社会保障については日本年金機構の「きつず年金検定」）を活用し、授業の復習を行う③統計データを活用し、授業に関連する内容の復習を行うなどを行った。

受講生 13 名の「この授業で出された課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした平均学習時間（一週間）」は 0.92 時間、「この授業で出された課題や予習・復習を行うこと以外の理由で、授業時間外に費やした平均学習時間（一週間）」は 0.58 時間であった。

課題のレポートでは、きつず年金検定は、「授業で学習した内容がたくさんあり、わかりやすく解説されていて復習になった」「同じ内容のことを授業とは違う形で 2 回学習したのでより深く理解することができた」「子ども用と思って甘く見ていたが、実際にやってみると難しく、しっかり知れたと感じた」という記述がみられ、複雑な仕組みである公的年金制度について、既存のサイトを使用した復習により理解を深めることができたといえる。

今後は、学生が授業時間外学習に積極的にかつ自発的に取り組めるように、課題や参考文献の精査などさらなる工夫が必要であると考える。